

特別展

生誕 100 年

ロボットと芸術



The 100th Anniversary | Robots and the Arts - Humanoid Crossing boundaries

越境するヒューマン/イド

苫小牧市美術博物館

TOMAKOMAI CITY MUSEUM

2020.7.18 [土] - 9.13 [日]

休館日 | 月曜日 ※ただし、8月10日は開館し、8月11日が休館

9:30 - 17:00 (入館は16:30まで)

観覧料 | 一般 600 (500) 円 高大生 400 (300) 円 中学生以下無料

- ※ () 内の料金は 10 名以上の団体および前売券の料金です。
- ※ 観覧料の免除規定についてはお問合せください。
- ※ 特別展観覧券で常設展・中庭展示も併せてご覧いただけます。
- ※ 年間観覧券を受付でご提示いただいた場合、一般 300 円、高大生 200 円でご入場できます。

前売券販売所 |

- 苫小牧市美術博物館 (苫小牧市末広町 3 丁目 9-7)
- 苫小牧市教育委員会 生涯学習課 (苫小牧市旭町 4 丁目 4-9 苫小牧市役所第 2 庁舎内)
- 苫小牧市勇払出張所 (苫小牧市字勇払 33 番地)

- 主催 苫小牧市美術博物館
〒053-0011 北海道苫小牧市末広町 3 丁目 9-7 TEL: 0144-35-2550 FAX: 0144-34-0408 <http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan>
- 共催 公益財団法人北海道文化財団
- 協力 北海道大学情報科学研究院ヒューマンコンピュータインタラクション研究室、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
株式会社ドリームホビー苫小牧本店、古趣 北乃博物館
- 後援 北海道、苫小牧商工会議所、苫小牧信用金庫、北海道新聞苫小牧支社、株式会社苫小牧民報社、株式会社三星



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION
公益財団法人 北海道文化財団

FIRST LAW
A ROBOT MAY NOT INFER A — BEING OR THROUGH INACTION, ALLOW A — BEING TO COME TO HARM

SECOND LAW
A — MUST OBEY THE ORDERS GIVEN IT BY — BEINGS EXCEPT WHERE SUCH ORDERS WOULD CONFLICT WITH THE FIRST LAW.

THIRD LAW
A — MUST PROTECT ITS OWN EXISTENCE AS LONG AS SUCH PROTECTION DOES NOT CONFLICT WITH THE FIRST OR SECOND LAW.

生誕100年 | ロボットと芸術 ～越境するヒューマノイド

現代社会においてロボットは、日常生活をはじめ、様々な場面において重要な役割を果たしています。今でこそ、当たり前のように使われている「ロボット」という言葉ですが、初めてそれが世の中に登場したのは、チェコの文学者カレル・チャペック（1890～1938）の戯曲『R.U.R.』（1920）においてでした。その語源は、チェコ語で「^{ふえき}賦役／労働」を意味する「robota」であり、人間によく似た「人造人間」を指していました。その後、ロボットのイメージは世界的な広がりを見せますが、やがて、ここ日本にも伝わり、以降、一時的なブームにとどまらず、芸術表現と実社会の境界を超えて、様々なロボットが生み出されていきます。「ロボット」という言葉の誕生100年を記念して開催する本展では、人間の探究心や夢、そして欲望など、時代の精神が色濃く投影された人型ロボット「ヒューマノイド」に焦点を当てます。機械と身体をモチーフとする作品をはじめ、ロボットの実機や写真、映像、資料など多彩な展示物を通して、人間と機械の関係性、そして、それを取り巻く社会のあり方や芸術と科学技術の可能性について考察します。



a.



b.



c.



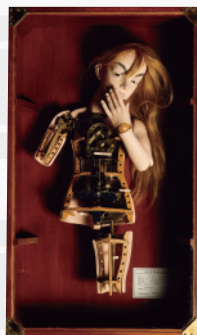
d.



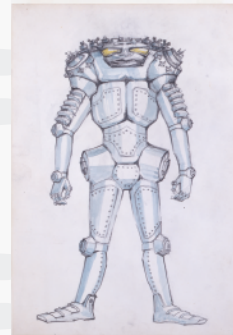
e.



f.



g.



h.



i.



j.



k.

第1幕 ロボット黎明期～ヒューマノイドの誕生と受容

- a. 「學天則」制作の指揮を執る西村真琴（資料写真）1928年 ※図版提供＝松尾宏
b. 相澤次郎『ガイドロボット「一郎」君』1959年 公益財団法人国際医療福祉教育財団蔵

第2幕 変容するヒューマノイド～時代の象徴としての自動機械

- c. 津田光太郎《日々にある》2019年 作家蔵
d. 伊藤隆介《Realistic Virtuality (Flying Nobody)》2002年、《Realistic Virtuality (Backdrop)》2012年 作家蔵（撮影＝小牧寿里）※参考図版

第3幕 機械×身体～美術史に見る想像と創造

- e. 中村宏《観光独裁》1965年 青森県立美術館蔵 | f. 西尾康之《Traces of legs》2020年 作家蔵
g. 四谷シモン《機械仕掛けの少女1》1983年 なるせ美術座蔵（撮影＝篠山紀信）

第4幕 キャラクターとしてのロボット～大衆文化への浸透

- h. 成田亨《キングジョー初稿》1967年 青森県立美術館蔵 | i. 大森記詩《Training Day・Patchwork Trapper》2018年 ※参考図版

第5幕 拡張するテクノロジー～ロボティクスの現在

- j. 『初音ミク』Art by KEI © CFM 2007年 ※図版提供＝クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
k. 『ロボビー』2010年 北海道大学大学院情報科学研究院ヒューマンコンピュータインタラクション研究室蔵

※ 展示内容および展示物は、新型コロナウイルスの感染拡大状況等により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

関連イベント

スライドトーク

担当芸員がスライドを用いて展示の見所を解説します。

日時：① 8月22日(土) ② 8月30日(日)

14:00～14:45

講師：当館学芸員

定員：30名 ※定員になり次第締切

ロボビー動態展示 & 操作体験

日時：8月29日(土) ① 13:30～14:00 ② 14:30～15:00

講師：水丸和樹氏（北海道大学大学院情報科学院）

定員：10名 ※定員になり次第締切

※ 各イベントへの参加料は無料ですが、事前申込みが必要です。いずれも8月4日(火)から申込受付開始

※ イベントの内容は新型コロナウイルスの感染拡大状況等により変更となる場合があります。

※ 詳細及び最新情報については、公式ホームページやFacebookでご確認いただくか、直接お問い合わせください。

同時期開催

ロボットと芸術展連動企画：ラウンジ展示「工業都市とロボット | 苫小牧・室蘭」 / 中庭展示 Vol.14 艾沢詳子「Weathering—風化—」

アクセス

●自家用車

国道276号（支笏湖通）と国道36号の交差点（苫小牧信用金庫中野支店かど）を港方面へ曲がり、交差点の次の信号を右折。出光カルチャーパーク内に駐車場（料金無料、約50台駐車可）があります。

●バス

苫小牧駅南口より、のりば①から「24番」「30番」「札幌駅前」 「郊外線」、のりば②から「21番」、のりば③から「13番」に乗り、「出光カルチャーパーク」で下車（所要時間約5分、料金210円）※下車後徒歩5分



[愛称：あみゅー]

苫小牧市美術博物館

〒053-0011 北海道苫小牧市末広町3丁目9-7

Tel : 0144-35-2550 / Fax : 0144-34-0408

http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan

www.facebook.com/tomakomai.museum

twitter.com/tomakomai_amyu